

# 12月号

# School Aid Japan

スクール・エイド・ジャパン



# Dream通信

2012. 12. No. 57

## 生徒会進行中!

## ~子どもたちが自ら文化を作っていく~



委員会ミーティングの様子



次々と問題を提起していく



副園長に報告する生徒会長

皆さんこんにちは。日本では本格的に冬になりましたが、ここカンボジアでも雨季から乾季に変わり、一年の中で一番寒い時期になりました。日中は25度近くまで気温が上がりますが、夜には15度近くまで下がるなど、子どもの体調管理には一層注意しなければならぬ時期です。

さて、今回のDream通信では、10月から始めた生徒会の、学年リーダーミーティング、委員会ミーティングの様子、また孤児院園内の農園を使った子どもたちのグループ農業のその後について、お伝えします。

### 生徒会ミーティング

生徒会の発足から1ヶ月が経過し、活動内容の確認や問題点などを話し合う場を設けました。まずは、学年リーダーのミーティングです。学年ごとに1人ずつリーダーを任命し、この1ヶ月の学年ごとの様子を発表してもらいました。問題点や要望などがぞくぞくと出てきます。それを、生徒会長がひとつひとつ回答し、あるいは指導方法について確認し、そして要望は生徒会長から園長へとあがる仕組みを作りました。ミーティング後には、学年ごとに指導方法について、問題点について、改善方法や今後の方針等をリーダーから話してもらいました。小学生は、まだまだリーダーという仕事に対してあまり考えられてないですが、中学生以上になると、リーダーにも責任感が出てきます。そしてリーダーの言うことを聞こうとする他の子どもの姿もたくさん見ることが出来ました。

次に、生徒会長が中心になり、委員会ミーティングも行いました。それぞれの活動内容の反省や問題点などを発表し、そして今後の方針などを話し合い、その内容をレポートにして園長に報告します。その内容をもとに、今後の活動に対する指導を行います。

皆、それぞれに意見を出してくれ、色々な問題点も見えてきました。今までは、子どもたちは問題を問題と気付かず、職員が注意してやっとわかる、ということもしばしばでしたが、今回のようなミーティングを続けていくことで、子どもたちが自ら問題を発見、そして解決できるようになれば、と願っています。そして1人1人がいつもアンテナを高く持ち、人間性を向上させていくて欲しいと思います。



今期最後の収穫(キャッサバ)

## グループ農作業

7月から始まった孤児院園内の農園でのグループ農作業ですが、現在ほとんどのグループが収穫を終え、次の耕起の時期に入りかけています。

今期に収穫した野菜は、空芯菜、さつまいも、とうもろこし、落花生、ハーブと様々な種類に及びますが、全て子どもたち皆で食べつくしました。中でも人気だったのはとうもろこしとさつまいもで、子どもたちにとってはデザート感覚のようで、食後にたくさん頬張っておいしそうに食べていました。子どもたちはまた同じものを植えたいと話していますが、今回使った土地で同じものを作ると栄養がなくなり、連作障害が出てしまいます。そこで肥料をやって耕起を行い土地を元気にしてからまた農作業を行うことを教えています。

体の大きい男の子は草刈り機と耕運機を駆使し、体の小さい子や女の子は有機肥料作りから再スタートします。これらが一番重要で、最も大変な作業です。しかしこれを怠れば今期のような収穫はできません。そして次からは土地を広げ、園内の農園の全てを稼働させたいと考えています。さらにこれから乾季になり、雨もほとんど降らなくなるので、水遣りも大変になります。ここで子どもたちが根気強く、飽きずに仕事ができるかが次の収穫にかかっています。そうして子どもたちが農業の方法も身につけ、農業の楽しさを知って欲しいと思います。



収穫後の畑を再び更地へ

## 子どもたちへの指導

毎週日曜日、朝から子どもたち全員を集めてミーティングを行っています。このミーティングで特に重要な項目が『モラリティスコア』です。1週間の中で生活態度、勉強態度に問題が見られた子どもに対して、全員の前で園長が叱ります。そして悪いことをした本人と、周りの子どもたちに対しても、何が悪かったのか、どうして悪いのか、そして今後どうすればいいのか、また、どうすれば子どもたちが悪いことをしなくなるのか、を考えさせ、教えます。そして何度も問題を起こす子どもに対しては、1人ずつ個別にミーティングを行います。そして次は絶対に悪いことはしない、勉強を頑張り、職員の言うことを聞き、園のルールを守ることを約束させます。



全体ミーティング

悪いことをした子どもたちは皆揃って表情がいつもと異なります。しかしだんだんと更正していくにつれて、表情が明るく、輝くようになっていきます。1度誤った行動をしても、それを反省し、理解することで、他の子どもたちの見本となるよう頑張る子どももいます。

園では、楽しい一面もたくさんありますが、時には子どもを厳しく叱らなければならない時もあります。子どもたち1人1人を見て、良い部分、悪い部分を見つけ、叱り、反省させることで、育てていきます。そしてそれぞれの夢に伴走しつつ、一人前になって園を卒業させるのが『夢追う子どもたちの家』の職員の使命です。



ミーティング時の子どもの表情は真剣